

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------------|----|--------------|
| ○事業所名 | こども発達支援 ハートシード (児童発達支援) | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年9月24日 | | ～ 令和7年10月22日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 10 | (回答者数) 10 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年9月24日 | | ～ 令和7年10月1日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年11月27日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 多職種の専門職を配置しています。児童指導員・保育士・公認心理師・言語聴覚士・看護師等が配置され、それぞれの専門性を発揮しながら、チームで個々のお子さまの発達や特性に応じたきめ細やかな支援を提供しています。協力医療機関との連携もしながら支援を行う体制も整っています。 | お子さまの発達状況を多角的な視点で捉えられるように、専門職同士の意見の出し合いと連携を行っています。活動前・活動後にお子さまの情報共有や支援内容の確認、役割分担についての話し合いが充実したものになるように努めています。必要に応じて、医療機関や保護者様を通して、園・就学先との共有を行っています。 | それぞれの職種の専門性を高め、より良い支援が行えるように、今後も事業所内外の研修等に参加していきます。 |
| 2 | 事業所の元々ある構造(小さな段差や柱)を活動内容に活かすことが出来ています。 | 床には危なくないように厚めのマットを敷き詰めて、走り回ったり巧技台を設置したりが出来るようにしてあります。段差や柱は運動遊びの中で、身体の動かし方や周囲を見る力を育てる為に活用しています。 | 現状を活かしつつ、危険防止と共に活動に繋がる配置を今後も考えていきます。 |
| 3 | お子さまの育つ環境が安心安定したものになるように、ご家族と日頃からのやりとりを密に行っています。 | 連絡ファイルを用いて、お子さまの発達状況や最近の様子等を共有出来るようにしています。半年に一度の支援内容についての説明以外に、毎回の活動後に、ご家族と振り返りを行う時間を設けています。その中で情報を共有したり、関わり方についてお声がけしたりしています。 | お子さまとご家族の気持ちに寄り添いながら、支援を行っていくように、今後もコミュニケーションを丁寧に行っていきます。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 園庭がないこともあり、室内活動が主となっています。 | ハートシードの児童発達支援は、プリント学習やボードゲーム等の机上で行うものと、巧技台やボールを使った身体運動を行う活動が主である為、室内での活動を行っています。 | スペースを最大限に活かし、1人1人に合わせた支援を試行錯誤していきます。また、家庭遊びや屋外遊びに応用出来る活動内容を今後も行い、ご家族に伝えていきます。 |
| 2 | 入り口が狭いことから、入退室に時間がかかることがあります。 | 既存の建物を事業所にしており、同時に複数の利用者様が来室した際に、出入りのしづらさが起きやすくなります。 | 今後も入退室の順番を工夫し、危険のないようにしていきます。また、お子さまが立ったまま靴を脱ぎ履き出来るように対策を考えます。 |
| 3 | | | |